

[成果情報名] 2015年と2016年夏期における山形県沿岸でのスルメイカ不漁要因

[要 約] 2015年は海流と低水温の影響で、2016年は夏期（5～7月）に漁獲対象となる群の資源状況が少なかったこと、海流と高水温の影響で、山形県沿岸はスルメイカ漁場が形成されにくい環境であった。このため、2015年と2016年夏期は山形県沿岸でスルメイカが不漁であったと考えられた。

[部 署] 山形県水産試験場・海洋資源部

[連絡先] TEL 0235-33-3150

[成果区分] 政

[キーワード] スルメイカ、水温、海流、漁場形成

[背景・ねらい]

山形県における夏期（5～7月）のいか一本釣漁業におけるスルメイカの漁獲量は、2015年が518トン（2014年比53%、過去5年（2009～2013年）比58%）、2016年は315トン（2015年比61%、過去5年（2010～2014年）比41%）と、2年続けて不漁であった（図1）。そこで、夏期における海況を調査し、2015年と2016年夏期の山形県沿岸でのスルメイカ不漁要因を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. スルメイカ漁場環境の解析には、拡張版日本海海況予測システム（JADE2）の再現図（50m層）と気象庁ホームページの海面水温および旬平均海流（50m）を用いた。
2. スルメイカ漁場は、スルメイカ漁況・市況情報（一般社団法人漁業情報サービスセンター（JAFIC））より推測した（図2）。
- 3 2015年
0.5kt以上の海流が離岸していた影響で、多くのスルメイカが本県沿岸に接岸できなかった。また、水温が平年より低く本県沿岸はスルメイカ漁場が形成されにくい環境であった。このため、山形県沿岸でスルメイカが不漁であったと考えられた（図2）。
- 4 2016年
この時期に漁獲対象となる群の資源状況が元々少なかった（(国研)水産研究・教育機構）。また、0.5kt以上の海流の本県沖北部への接岸がみられたが、本県沿岸への流入がなかった影響で多くのスルメイカが本県沿岸に接岸できなかった。さらに、水温の上昇が早かったためスルメイカが本県沿岸に漁場を形成せず北上してしまった。このため、山形県沿岸でスルメイカが不漁であったと考えられた（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 他道県の漁況やより広範囲の海況とを合わせて解析する必要がある。他の年の漁海況を解析し、夏期のスルメイカ漁場形成要因を解明することで、海況により山形県沿岸におけるスルメイカ漁況が予測可能となる。
2. 0.3kt程度の弱い海流の沿岸への流入が確認された時期や箇所にも、不漁年のため小規模ではあるが各地沿岸でスルメイカ漁場の形成がみられた。2015年5月下旬～6月上旬にかけて0.3～0.5kt程度の海流の佐渡島南部から本県沿岸への流入が確認でき、5月下旬におけるスルメイカ漁獲量上昇の一因と考えられる。

[具体的なデータ]

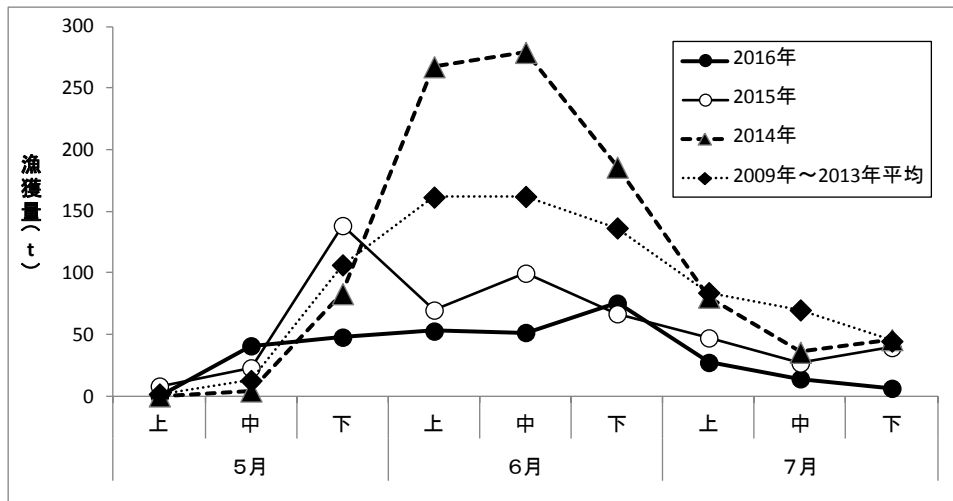


図1 山形県における夏期のいか一本釣漁業のスルメイカ旬別漁獲量の推移
2016/06/15

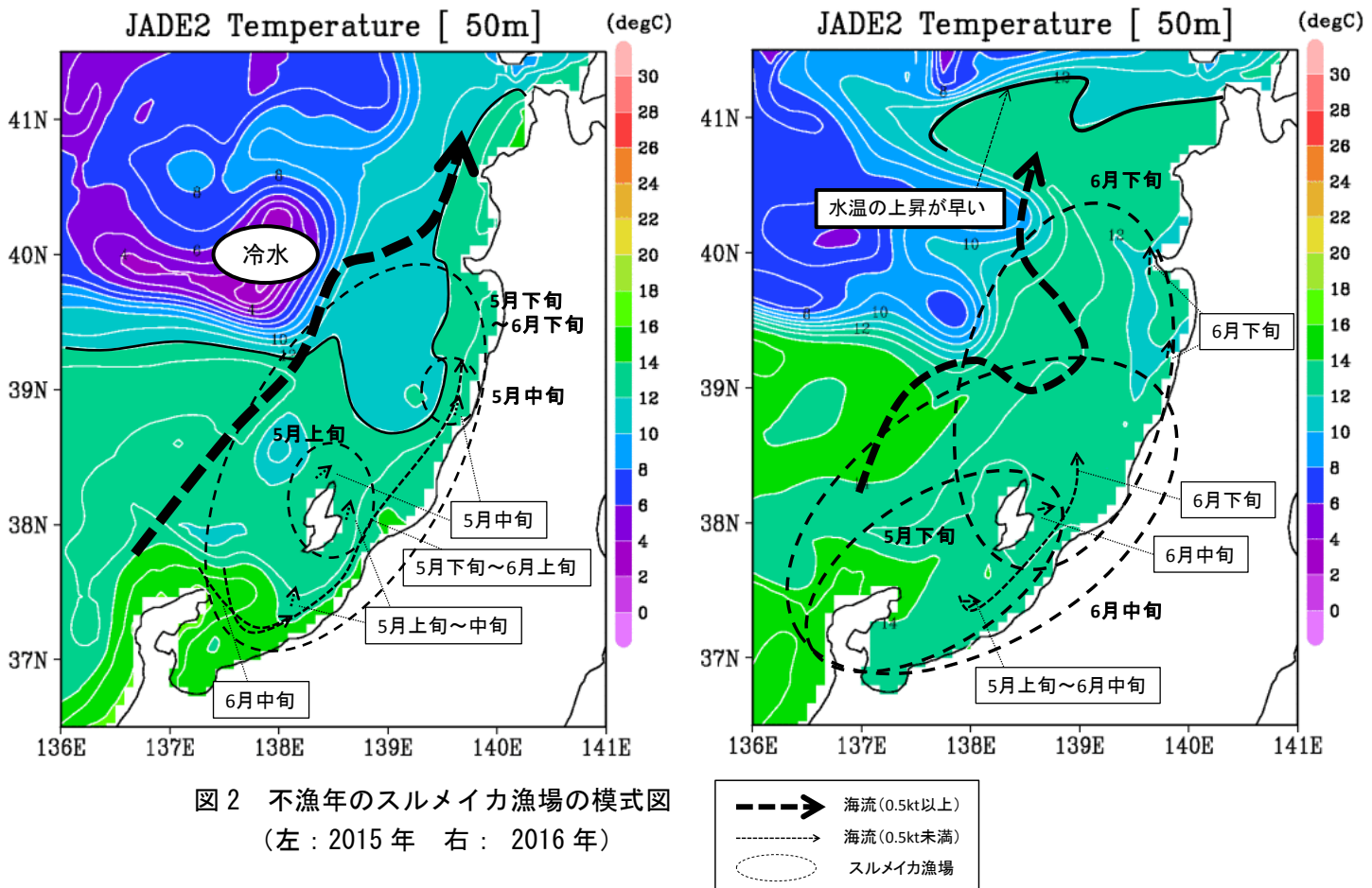


図2 不漁年のスルメイカ漁場の模式図
(左: 2015年 右: 2016年)

[その他]

研究課題名：資源調査・評価事業
 予算区分：受託
 研究期間：平成28年度
 研究担当者：河内正行
 発表論文等：なし